

「地質百選」に生野鉱山跡決定

「生野鉱山跡」はこのほど、「日本の地質百選」に選定されました。

「日本の地質百選」は、優れた学術的価値などを持つ地質区域に関する情報を共有し、貴重な資源の保存と活用を進めようと、NPO 法人地質情報整備・活用機構などが提唱し、国や地質学会などを交えた選定委員会が認定するもの。生野銀山は採掘の歴史が長く、明治時代には官営鉱山第1号となり、日本近代化の原動力となったことが評価されました。



今年で開坑 1200 年を迎えた「史跡生野銀山」

クリーン但馬10万人大作戦を実施

市は5月27日と6月3日の両日、「クリーン但馬10万人大作戦」を実施しました。

これは但馬各市町が統一事業として毎年行っているもので、市内ほぼ全戸から約1万2千人が参加。ごみや空き缶の回収などに取り組みました。

この両日に集まったごみは約53トン。朝来市建設業協会の支援を受けたダンブカー延べ百20台によってクリーンセンター山東事業所に運ばれた後、不燃物と可燃物に分別され処理されました。



自分たちの住まわちをきれいにしようと熱心に作業をする人々（柳原区）

史跡茶すり山古墳整備事業

レプリカ完成

史跡茶すり山古墳で制作を進めていた埋葬施設などのレプリカがこのほど完成しました。

墳頂部にお目見えしたこのレプリカは、長さ13・9^{メートル}、幅10・7^{メートル}の埋葬施設と被葬者の遺骸を置いた川原石や鏡、刀剣などをFRP素材（ガラス繊維強化プラスチック）で立体的に復元した第一主体部をはじめ、陶板写真焼付による平面表示の第二主体部。そのほかヤマト政権と深いつながりを示す埴輪107基が古墳を囲むように埴丘中段テラス部分に並べられています。



墳頂部レプリカをおおう屋根。上から観覧できるようになっています。

古墳を取り囲むようにして並べられた埴輪（はにわ）。古墳と日常の世界を区別し、埴輪の列の内側を神聖な場所とする役割がありました。



同古墳は5世紀初頭の遺跡で、円墳の直径が90^{メートル}と近畿最大。刀剣といった武具や埴輪、玉類など全国的にも珍しいものが多数発見され、平成16年に国史跡に指定されました。

市教育委員会は、21年の整備事業終了後の正式公開前に、来年4月以降一時的に一般公開する予定にしています。また、市内に点在する前方後円墳（池田古墳、船宮古墳など）を中心とした大型古墳や、史跡竹田城跡などの地域固有の史跡群との有機的なネットワークを構築し、地域の歴史文化を総合的に学習できるシステム作りを目指すことにしています。